

小林栄三

公益財団法人 全国法人会総連合
会長

80万社に及ぶ法人会の会員ネットワークをイノベーションの源泉に！

全国440の法人会と41の県連を束ねる全国法人会総連合。「税のオピニオンリーダーとして、企業の発展を支援し、地域の振興に寄与し、国と社会の繁栄に貢献する」との理念を掲げ、税のるべき姿や将来像を見据えた提言活動、啓発活動を行っている。一方で、税務や経営に関する研修会を開催し、事業活動を支援する役割も担っている。今年6月には、伊藤忠商事会長や日本貿易会会长などを務める小林栄三氏が新会長に就任。「組織としてのさらなる充実を図り、会員企業にいつそうのメリットを提供したい」と語る。

全国法人会総連合 1954年設立。「税のオピニオンリーダー」としての責務というべき「税制改正提言」、会員の研鑽を支援する「研修活動」、地域振興やボランティアなどの「地域社会貢献活動」を大きな柱に据えて活動を開いている。

全国法人会総連合
1954年設立。「税のオピニオンリーダー」としての責務というべき「税制改正提言」、会員の研鑽を支援する「研修活動」、地域振興やボランティアなどの「地域社会貢献活動」を大きな柱に据えて活動を開いている。

小林栄三
(こばやし・えいぞう)
1949年生まれ。72年
に大阪大学基礎工学部を卒業し、伊藤忠商事に入社。香港、ロサンゼルス駐在を経て、情報産業部門長、常務、専務、社長を歴任。2010年より会長。日本貿易会会长や行政改革推進会議メンバーなども務める。

えて、それが一気に世界中を網羅するようになりました。そうした中で重要なのが、まさしく異なる業界の企業などと情報交換する手段を持つことだと私は思います。なぜなら多様な情報チャネルを確保しておくことは、変化の予測可能性を高めることにつながるからです。

また、現在先進国の企業が成長しようと思えばイノベーションの創出が欠かせません。そこでも、多様なバックグラウンドを持つ人や企業

との連携は大きな力を發揮します。異なる価値観の融合は、新たな技術や製品、サービスを生み出す強力な原動力なのです。

では、自社にない情報や考え方を持つ相手と上手に付き合うにはどうしたらいいか。それに自らも真摯に勉強し、相手に提供できるもの用意しておくことが大事になります。例えば気になる相手に「会いたい」と伝えれば、一度は会ってくれるかもしれません。ただし、二度

後も、「納税者自らが税の知識を習得し、自らの声を行政に反映させよう」との考えのもと、全国各地で法人会が誕生。さらに、業種の枠を超えて大局的な見地から活動する必要性が叫ばれるようになり、54年に全国団体としての全国法人会総連合が発足しました。

私自身は、2年ほど前に当時の会長である池田弘一さん(元アサヒビール代表取締役社長)にお声かけいただき、まず副会長を務め、この度会長に就任しました。責任者としてあらためて感じるのは、全国約80万社に及ぶ会員企業を有する法人会という組織が極めて地道に、堅実に各社の事業活動を支え、健全な税制の実現を後押ししているということです。

具体的には、法人税の引き下げや中小企業の活性化に資する税制を国に提言したり、税務署の職員や税理士による決算関連の研修会を開催したり……。企業にとって税務というのは、経営者が税の勉強をするための組織をつくったのが法人会(当時は法人税協会)の始まりです。その

今後の抱負としては、第一に会員となつている企業にいつそうの加入メリットを提供していくべきです。その実現に何よりも寄与するのが約80万社という会員企業の大規模なネットワークにはなりません。なぜなら、多様な業種、業態からなる組織網は、異なる知識やノウハウを交流させる絶好の場だからです。しかし、その中身は20世紀と21世紀でまったく違います。ITなどの進化により、変化のスピードは著しく速まり、振れ幅も大きくなつた。加

自社の役割を再確認し 「全体最適」の追求を



他方、税の啓発活動、教育活動においては、子どもたちに向けて「租税教室」を開くなど長期的な視点で取り組みを進めています。東京法人会連合会では、「キッザニア東京」に期間限定の税務署・バリオンを設置。子どもたちに税務職員の仕事を体験してもらう活動を続けており、評価をいただいています。



対談

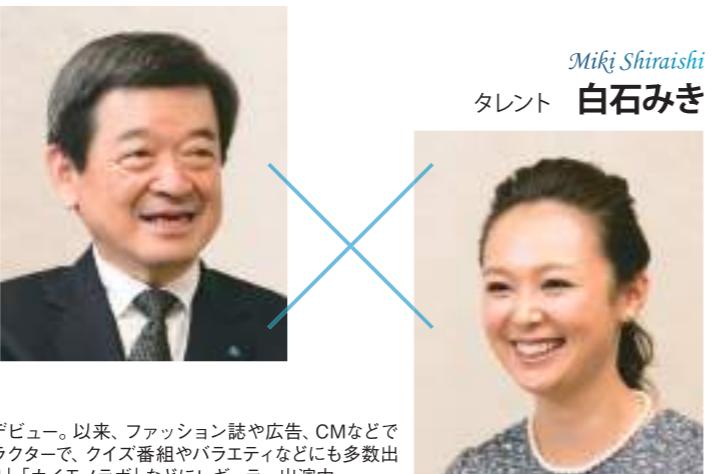
公益財団法人全国法人会総連合
<http://www.zenkokuhojin-kai.or.jp/>



公益財団法人全国法人会総連合
会長 小林 栄三
Eizo Kobayashi

1949年福井県生まれ。大阪大学基礎工学部物性物理工学科卒業後、1972年に伊藤忠商事株式会社入社。海外勤務を経て情報産業ビジネス部長などを歴任。2004年同社取締役社長、2010年会長に就任。2015年全法連副会長に就任、2017年6月から会長を務めている。

1982年東京都生まれ。3歳でモデルとしてデビュー。以来、ファッション誌や広告、CMなどで幅広く活躍。フレッシュな笑顔と明るいキャラクターで、クイズ番組やバラエティなどにも多数出演。現在は「賢者の選択」「世界ふしぎ発見!」「カイモノラボ」などにレギュラー出演中。



異業種経営者とのコミュニケーションを推進 小林新会長に聞く法人会の新たな取り組み

中小企業を中心に全国約80万社が加入する経営者団体「法人会」。税のオピニオンリーダーとして、どのような取り組みを推進しているのでしょうか。今年6月、公益財団法人 全国法人会総連合(全法連)の新会長に就任した小林栄三氏に「賢者の選択」番組ナビゲーターの白石みきさんが聞きました。

白石 まず法人会について教えてください。どのような組織なのですか。

小林 法人会は戦後すぐの1946年に誕生した経営者の団体です。現在は全国で約80万社の企業が加入しています。各地域には41県連、440の法人会があり、全国の組織を束ねているのが全法連です。70年の歴史を持ち、申告納税制度の定着に向けて適正な納税の推進、税の提言活動などを行ってきました。また、会員数のスケールメリットを活かして、地域の振興に寄与する社会貢献なども積極的に進めています。

白石 具体的にどのような活動をされているのでしょうか。

小林 加入している80万社にはいろいろな業種の会社があります。そこで、幅広い

業界の経営者との異業種交流を推し進めています。もちろん、法人会の原点である税を切り口としたさまざまな事業も展開しています。さらに今後はさまざまな見地から議論を重ねてイノベーションを起こすきっかけの場として機能させていただこうと考えています。

白石 法人会に加入することで、経営の方にはどのようなメリットがあるのでしょうか。

小林 どのような社会でも企業であっても、人間が一人できることには限界があります。そこで大切なのがネットワークを持つことです。1+1、1+2と集まることが可能で広げることができます。

白石 コミュニティがあることで、いろいろな視点から見ることができます。税に

関しても、分かっているようで実は知識が不足していることもあります。

小林 そうですね。税務署や税理士などのコミュニケーションを深め、法人納税者として正しい税の知識を持つことは、企業経営そのものやガバナンスにも密接に関わります。更に、企業とはどうあるべきかを習得できますから、とくに若い経営者の方には実践的な場として活かしていただいている。

白石 今年の6月に新会長に就任されたそうですね。その経緯や就任の感想を教えてください。

小林 2年ほど前に前会長からお誘いを受けたことがきっかけです。私自身は伊藤忠商事の会長となり、より社会貢献を果たしていきたいと考え、全法連の副会長を

務め、今回会長に就任しました。法人会は他の経済団体に比べ、知名度や社会への浸透度は必ずしも高くありませんが、実際は地道にしっかりと毎日の経営を進めるための情報を提供しています。派手ではありませんが、日本の企業や社会の発展に大きく寄与していると考えています。

白石 どういった思いで新会長としての役割を果たしていきたいとお考えですか。

小林 日本が抱える大きな社会問題はやはり人口減少です。とくに少子高齢化が進むなか、地方や企業の活性化などの課題があります。こうした課題に向けて逃げることなく、真正面からぶつかって光を見いだしていくことを会員の皆様とともに取り組んでいきたいと考えています。社会構造の変化を受けて、日本では企業数そのものが減少しています。これに伴い、法人会の会員数も減っています。これを食い止めて、好転させるためには、とくに新しく設立した企業の方に加入していただき、そして既存の企業の方にも明らかなメリットを感じていただけるような組織にしたいと考えています。さまざまな会合などでFace to Faceで対話しながら、その方向性を探って行きたいですね。また、法人会としても、税制について国にさまざまな提言をしていきたいと考えています。

白石 小林会長は現在の税制や税のあり方をどのように捉えていらっしゃいますか。

小林 税は経済や社会を活性化するために必要なものです。その施策をどのように進めるのかに加え、法人税や消費税のあり方を考えいただかなければなりません。とくに、国の発展を支えるためにも経済の成長が必要です。グローバルな視点から見ると、法人税のあり方については、世界的な議論が求められているとも言えます。

白石 小林会長は企業経営でどのようなことを大切に考えているのですか。

小林 座右の銘に掲げているのは「一期一会」です。人間は一生のうちに何人の人と出会えると思いますか。私は比較的多くの方とお会いしてきたと思いますが、それでも1日に5人とするとき、ひと月100人、1年で1,200人、40年でも5万人です。世界に74億人もいるのに、実際にはこれだけしか会

うことはできないのです。そう考えると、人と出会える機会は大事ですし、出会った方との関係を保つことも大切です。

白石 出会える場に積極的に赴くことが必要ですね。

小林 どのような方にお会いしても、必ず勉強できる面があるものです。多くの方と

会うことで得られることも増えます。世の中はやはり人です。先生や両親、同僚や友人、後輩といった人との関係で成り立っているものです。誰でも一度は会ってもらわるものですが、何度も会ってもらうためには、まず自分が勉強することです。相手にとって、会う価値のある人間にならなければいけません。お互いに価値を見いだすことが大切です。

白石 全国の経営者の方に向けてメッセージをお願いします。

小林 企業経営に大切なのは「三方よし」という考え方です。これは売り手よし、買い手よし、世間よしという近江商人に伝わる

経営哲学です。企業市民という言葉もあるように、すべての企業はどのように社会を意識するかが大事なのです。もちろん、企業そのものが発展しなければ、社会に貢献できないかもしれません。それでも常に社会を意識して、地域の発展や結果として国の大衆を考へるのが経営者の真の姿です。時代や社会は大きく変化を続けています。変化の振れ幅も大きくなり、情報伝達手段の発展によってそれが世界中のあらゆる業種にスピーディーに伝わってきます。そこで大切なのは異業種を含めたネットワークです。自分と違った価値観を持つ異業種の考え方を総動員し、いろいろな知恵を授かって企業の発展を目指して欲しいと思います。技術や商品、ビジネスモデルなどイノベーションは人から生まれるのです。こうした意味でも法人会を交流を図るための場所として活用していただければ、法人会もさらに大きく発展するものだと思います。



法人会の動画は賢者の選択 ビジネスLABのウェブで公開中!



一人の思いが世界を変える。
<http://kenja.jp/lab/>

賢者の選択

企画／矢野プロジェクト